



M.I 日本語日本文学科 2 年次生

参加期間： 2017 年 3 月 1 日～3 月 10 日（10 日間）

I. プログラムについて

10 日間のプログラムで、私は 2 回授業をしました。静宜大学の授業システムは大体が 2 コマ続きなので、1 回の授業が 50 分×2（間休憩 10 分）でした。それぞれのクラスの担当の先生と 1 月から、使っている教科書や、クラスの雰囲気などを知るためにメールのやり取りを行います。そのメールをもとに、2 月から教案を作り始めます。台湾に行くまでに丸山先生に 4, 5 回、教案の修正を行っていただきました。



また、このプログラムは授業をするだけのものではありません。土日には、静宜大学の学生さんに台中市内と日月潭の観光に連れて行ってもらいました。台中市内では、博物館や台湾料理、タピオカミルクティーで有名なお店に行きました。日月潭は、とても大きな湖があるところです。その湖を船で渡るのですが、とても晴れた日で、風が気持ちよかったです。なかなかできない貴重な体験だったので、大満足でした。

II. 参加希望者へのアドバイス

台湾へ行くかどうかを私はとても悩んでいました。海外に行ったことがなかったので、不安でいっぱいでした。いくら台湾が親日と言われていても、10 日間では何も得られないと思っていました。しかし、わずか 10 日間で私は自分の価値観が変わりました。確かに、実習は本当に大変です。冬休みから実習の課題をし、台湾に行くぎりぎりまで教案を練り直します。台湾に行っても教案の練り直しは続き、一から作り直す場合さえあります。それでも頑張ることができたのは、静宜大学のチューターさんや授業を受けてくれた学生さんたち、担当していただいた先生の応援と優しさがあったからです。今では本当に行っても良かったと思っていますし、得られたものはとても大きなものでした。絶対に静宜大学に行っても損はしません。不安以上に、期待と希望を実感することができます。ぜひ行ってください！





M.K 日本語日本文学科 2年次生

参加期間： 2017年3月1日～3月10日(10日間)

I. プログラムについて

私は、大学生のうち一度は海外にチャレンジしてみたかったのと、静宜大学は教壇に立てるチャンスが多いと聞いて、このプログラムへの参加を希望しました。主な活動内容は、大学での授業実習と現地の学生との交流です。授業実習では、事前に静宜大学の先生とメールでやりとりしながら、どんな授業にするかを考え教案を作成し、実習に臨みました。実際に私は、計4コマ分授業をさせていただきましたが、イメージとしては、日本の教育実習みたいなもので、学生が使っている教科書を使い、教材やプリント・パワーポイントを自分で準備し、「先生」としてすべて一人で授業を進めていきます。自分が実習にあたっていない時間は、静宜大学の先生の授業や、他の参加者の実習を見学することもでき、大変勉強になりました。普段の模擬授業とは違い、実際に日本語を学んでいる学生、しかも同年代の人たちに教えるという経験は、非常に新鮮で貴重な時間でした。

休み時間や放課後、土日は静宜大学の学生とたくさん交流しました。静宜大学の学生は私たちをととても歓迎してくれて、お昼ごはんを一緒に食べようと誘ってくれたり、夜は夜市という縁日のようなものに連れて行ってくれたり、いつも気にかけてくれました。土日は一日中私たちを連れて、台中市内や日月潭と呼ばれる湖を案内してくれ、毎日がとっても充実した十日間を過ごすことができました。



II. 参加希望者へのアドバイス

日本語教育を専攻している人は学外での実習が必修になったので、参加を考える方も多いかもしれません。それならばぜひ、台湾へチャレンジしてみてください。こんな機会があるのは大学生である今だからこそです。台湾は親切な方が大変多く、静宜大学もとてもいいところで、初海外の私にとってありがたかったです。言葉や食べ物について不安なことがあると思いますが、安心してください！私は中国語を勉強したことがありませんでしたが、現地の学生がしっかりサポートしてくれるので大丈夫です。もちろん話せたほうがもっと楽しめるし、話せない人は実習を終えたら中国語を勉強したくなるはずですよ。食べ物についても、現地独特のものもありますが、日本で食べているものと変わらないものも多いので、特に心配はいりません。

また授業について、専攻している人もそうでない人も不安だと思います。ですが、静宜大学の先生方と事前にメールのやり取りで案を練っていくことができますし、現地でも十分対応する時間はあります。迷っているならばぜひ参加してみてください！





S.Y 日本語日本文学科 2年次生

参加期間： 2017年3月1日～3月10日(10日間)

I. プログラムについて

台湾の台中にある静宜大学で、日本語学科の学生に日本語の授業を行います。

準備は台湾に行く前から始まります。丸山先生の指導の下、12月中旬から1月下旬までは自分たちで書籍を読み、台湾の歴史や文化についてまとめたレポートを提出して発表するという課題を課されます。そうして台湾という国に対する理解を深めたら、静宜大学の先生方と連絡を取り合い、いよいよ教案作りに入ります。教案作りに充てられる時間は1月下旬から2月下旬あたりまでとなります。

静宜大学の先生からは、基本的に「あなたの好きなように作りなさい」と言われます。授業計画はもちろん、教材選びからパワーポイントの内容まですべて一人で考えなければならぬので、初めは当然不安もありましたが、丸山先生がご丁寧に相談に乗ってくださったので、非常に安心して教案作りに集中することができました。

丸山先生から許可を頂けたら、今度は静宜大学の先生方にご指導を仰ぎます。完成した教案を更に台湾の学生に合うように、アドバイスを加えて送り返して頂けます。

静宜大学の学生はみんな学習意欲が高く真面目で、非常に親切です。10日間という長いようで短い時間でしたが、学長先生からチューターとしてお世話になった学生さんたちまで、私たちが客人として心からもてなしていただき、本当に気さくに話しかけてくれました。台湾の学生は日本人と似ていて少しシャイですが、打ち解けてみると誰でも距離感なく接してくれます。チューターの方々やTAの方々も、授業終わりに毎日観光名所や美味しいご飯屋さんまで連れて行ってくれたので、予定がない日がなかったくらいでした。私たちとの日常会話だけでなく、建物や食べ物の説明もすべて流暢な日本語で行ってくれました。また、食堂で困っていると、見知らぬ日本語学科の学生さんが助けてくれたこともあります。先生方も現地においても様々な助言をしていただき、お会いする度に気を使ってくださいました。10日間異国で何不自由なく生活できたのは、丸山先生、そして静宜大学の方一人ひとりが親身になって面倒を見てくださったおかげです。本当に心優しい方ばかりで、感謝してもしきれません。

静宜大学での実習は、日本語指導実習としても、国際交流活動としても、これ以上ない内容です。私は教師としても人間としても、成長できました。将来日本語教師を目指している人には、静宜大学を心からお勧めします。

II. 参加希望者へのアドバイス

教案作りに充てられる期間は約一ヶ月ですが、悠長に構えていると意外とあっという間に過ぎていきます。後回しにすると後から焦ることになるので、気を付けてください。

また、授業では想像していなかったことを聞かれることがあるので、臨機応変な対応が望まれます。授業内容に学生がきちんとついて来られているかの確認も重要です。気持ちに余裕を持ち、学生の顔色、反応を窺いながら授業を行うことが大切です。



現地に入ってから、他の先生から突然他の科目の授業もやってみないか、というお誘いを頂くことがあるかもしれません。私たちの場合は、日本語学科の3、4年生に向けた秘書検定の授業でした。こちら秘書検定については全く分からない状態だったので、空いた時間に秘書検定の教科書を読んで学習し、みんなで授業計画を作成しました。即興でしたが、授業は盛り上がり、学生さんからは「楽しかった」と言ってもらえました。こういった急なお誘いもありますが、自分たちのスキルアップにもなりますし、良い経験にもなると思うので、余裕があれば積極的にお受けした方が良いと思います。

宿泊先のゲストハウスには郵便局、コンビニ、スーパー、食堂が数種類あります。足りないものは大抵スーパーで買うことができるので、生活面では困りません。食堂の奥には一枚1円で印刷をしてくれる場所もあります。しかし、大量コピーをするなら日本語学科の事務室に頼んだ方が良いでしょう。ゲストハウスから遠い校舎にあるのが難点ですが、事務室では30分ほどでその場で大量印刷をしてくれます。料金も無料です。

静宜大学は台湾では中くらいの広さですが、それでも相当広い敷地です。キャンパスの中でも校舎が分からず迷いますし、校舎の中でも迷うことがあります。特に私たちが授業を行う校舎は少し変わった設計をしているので、始めのうちはよく迷うかと思います。使用する教室への行き方、教室の設備がどうなっているかの確認は、必ず念入りに行ってください。

教案の修正は、現地入りしても行うことになるかと思います。想像していた教室の作りではなかったり、クラスの雰囲気先生から聞いてから、変更した方が良い点などが出て来たりします。

現地で仲良くなった学生さんやTAさんには、連絡先の他にFacebookやInstagramも聞いておいた方が良いでしょう。帰国後もみんなの近況を知ることができます。私も実習を終えた今でも、みんなと連絡を取り合っています。

授業では常に学生の視点に立ち、学生にとって何が最良かを考えてください。焦らなくて大丈夫です。予定通りに行かないことは当たり前です。心に余裕があれば冷静な判断もできますと思います。自分を信じて頑張ってください！

